

YAESU
The radio

C4FM/FM 144/430MHz
DIGITAL/ANALOG TRANSCEIVER

FTM-7250D

FTM-7250DS

取扱説明書 詳細編



製品の仕様・外観等は改良のため予告なく変更することがあります。
この取扱説明書に記載の社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。
この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、詳細な機能についての説明が記載されています。
基本的な操作についての説明は、本製品に同梱の取扱説明書をお読みください。

目次

機能設定	1
マイクゲインの調整.....	1
RF スケルチ.....	1
リバース機能.....	2
マイクロホンのプログラムキーを設定する.....	3
アナログ FM モードで特定の相手局と交信する	4
アナログ FM モードのスケルチの種類を選択する.....	4
トーンスケルチ機能.....	5
トーン周波数を設定する.....	5
相手局が使用しているトーンスケルチの周波数を探す.....	5
デジタルコードスケルチ(DCS)機能.....	7
DCS コードを設定する.....	7
相手局が使用している DCS コードを探す.....	7
新ページャー(PAGER)機能.....	9
自局のページャーコードを設定する.....	9
相手局のページャーコードを設定する.....	9
新ページャー機能を使う.....	10
相手局からの呼び出し(待ち受け動作).....	10
相手からの呼び出しを知らせるベル機能.....	11
DTMF 機能を使う	12
手動で DTMF コードを送出する.....	12
DTMF メモリーを登録する.....	12
登録した DTMF コードを送出する.....	13
DTMF 送出スピードの設定.....	14
DTMF 送出ディレイ時間の設定.....	14
便利な機能	15
スプリットメモリー.....	15
メモリーに名前をつける.....	16
メモリータグ表示と周波数表示を切り替える.....	17
メモリーだけで運用するメモリーオンリーモード.....	17
スキャンしたくないメモリーチャンネルをスキップする(スキャンスキップ).....	18
スキャンしたいメモリーチャンネルを指定する(指定メモリースキャン).....	18
指定メモリーで設定したメモリーチャンネルだけをスキャンする.....	18
プログラマブルメモリースキャン(PMS).....	19
プログラマブルメモリーに書き込む.....	19
プログラマブルメモリースキャンをする.....	19
デュアルレシーブ(DW)機能.....	20
プライオリティメモリーチャンネルを設定する.....	20
デュアルレシーブ(DW)を動作させる.....	21
使い方にあわせて設定を変える(セットモード)	22
セットモードの操作方法.....	22
セットモード動作一覧表.....	23
クローン操作	25

機能設定

マイクゲインの調整

マイクロホンの感度(マイクゲイン)を調節することができます。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**MIC GAIN 25**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわしてレベルを選択します。
LEVEL 1 ～ LEVEL 9 から選べます。
工場出荷時：LEVEL 5



4. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。

RF スケルチ

設定以上の信号強度(S メーター値)の信号を受信したときだけ、音声を出力することができます。



RF スケルチは、FM モードまたは AM モードで使うことができます。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**RF SQL 34**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。



3. **DIAL** ツマミをまわして設定値を選択します。
OFF : RF スケルチ機能がオフになります。
S1 ～ S8 : S メーターが設定した値以上の信号の音声を出力します。



工場出荷時：OFF

4. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。



- RF スケルチが設定されているときは、設定した信号強度に相当する S メーター部分が点滅します。
- 設定した信号強度(S メーターの値)未満の信号を受信しているときは、モードステータスインジケータの下側が青色に点滅して音声は出力されません。

リバース機能

レピータシフトが設定されているときに、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えて、相手局のアップリンクを直接受信できるかどうかを確認したり、ダウンリンク周波数で送信して相手局と交信することができます。また、スプリットメモリーを呼び出している時は、一時的に送信と受信の周波数を入れ替えることができます。

1. マイクロホンの **[P3]** または **[P4]** に“REV”(リバース機能)を割り当てます。

割り当て方法は、“マイクロホンのプログラムキーを設定する”(3 参照)を参照してください。

2. “REV”を割り当てたキー(**[P3]** または **[P4]**)を押します。

一時的に送信と受信の周波数が入れ替わり、“-+”が点滅します。



3. “REV”を割り当てたキー(**[P3]** または **[P4]**)を押すと、リバース機能が解除されます。

マイクロホンのプログラムキーを設定する

付属品のマイクロホン(MH-48A6JA)のプログラムキー(P3 と P4)に機能を割り当てます。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして、機能を割り当てるキーを選択します。

P3 キーに設定する場合 ➡ **PRG P3 31**

P4 キーに設定する場合 ➡ **PRG P4 32**

3. **[MHz SETUP]** キーを押します。

PRG P3 31

PRG P4 32

4. **DIAL** ツマミをまわして割り当てたい機能を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。
以下の機能を設定することができます。

表示	機能
SQL OFF	スケルチオフ
HOME	ホームチャンネルの呼び出し
CD SRCH	トーン周波数 /DCS コードサーチ機能
SCAN	スキャン開始 / 停止
T CALL	選択しないでください
TX POWER	送信出力設定
MODE	通信モードの変更
GM	グループモニター(GM)機能
WIRES-X	WIRES-X へのアクセス
REV	リバース機能
DW	デュアルレシーブ機能

工場出荷時： P3 キー ➡ WIRES-X

P4 キー ➡ SQL OFF

5. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。

上記の機能以外に、よく使用するセットモードを **[P3]**/ **[P4]** キーに登録することができます (PRG P3 と PRG P4 を除く)。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして、割り当てたいセットモードを選択します。
3. **[P3]** または **[P4]** キーを長押しすると設定が保存されます。
4. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると、通常画面に戻ります。

アナログ FM モードで特定の相手局と交信する

アナログ FM モードのスケルチの種類を選択する

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**SQL TYPE 44**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。

SQL TYPE 44

3. **DIAL** ツマミをまわしてスケルチの種類(下表参照)を選択します。



トーンスケルチや DCS、新ページャーなど各種のスケルチ機能は、デジタルモードでは動作しません。**[MODE DCS]** キーを押して、アナログ FM モードか AMS モードに切り替えてください。

スケルチ種類	アイコン表示	スケルチの動作説明
OFF	—	トーンスケルチや DCS などがオフになり、アナログ FM モードの通常のスケルチ動作となります。
TONE	T (点灯)	トーンを含んだ信号を送信します。 受信は通常のスケルチ動作となります。
TSQL	T SQ (点灯)	トーンスケルチがオンになります。
DCS	DCS (点灯)	デジタルコードスケルチ (DCS) がオンになります。 023 ~ 754 の中から 104 種類のコードが設定ができます。
RV TONE	T SQ (点滅)	リバーストーンがオンになります。 通話していないときにトーン信号が含まれ、通話を開始するとトーン信号が含まれない方式の通信を受信するとき 사용합니다。
PAGER	P (点灯)	新ページャ機能がオンになります。 仲間同士で運用中に、個別コードを設定して特定の局を呼び出すことができます。
D CODE *	DCS (点滅)	DCS コードを含んだ信号を送信します。 受信時は通常のスケルチ動作となります。
T DCS *	T DCS (点滅) (点灯)	送信時にトーン信号を含んだ信号を送信し、受信時には DCS コードが一致した信号だけを受信します。
D TONE *	T SQ DCS (点滅) (点灯)	送信時に DCS コードを含んだ信号を送信し、受信時にトーンが一致した信号だけを受信します。

※：セットモード [SQL EXP 43] (□ 24 参照) を ON に設定すると、“D CODE”、“T DCS”、“D TONE”の設定項目が選択できるようになります。

4. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。



- スケルチの種類は周波数帯(BAND)ごとに設定できます。
- トーンスケルチや DCS の設定は、スキャン動作時も機能します。トーンスケルチや DCS が機能している状態でスキャンすると、一致する周波数のトーンや DCS コードが含まれている信号を受信したときだけスキャンが停止します。
- “SQL OFF” を割り当てたマイクロホンの [P3] または [P4] キーを押すと、トーンや DCS コードが含まれていない信号や異なるトーンや DCS コードの信号を聞くことができます。
- セットモード [11 DCS INV] (□ 23 参照) で、送受信それぞれで反転 / 非反転した位相の DCS コードの組み合わせを設定できます。

トーンスケルチ機能

トーンスケルチ機能を使うと、設定した周波数のトーンが含まれた信号を受信したときだけスケルチが開きます。トーンスケルチを使うと、特定の局からの呼び出しを待ち受けている間も、他局の信号は受信しません。



トーンスケルチはデジタルモードでは動作しません。**[MODE CS-45]** キーを押して、アナログ FM モードか AMS モードに切り替えてください。

トーン周波数を設定する

トーン周波数は、67.0 ~ 254.1 Hz の 50 種類から選択できます。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**SQL TYPE 44**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。

3. **DIAL** ツマミをまわして“**TSQL**”を選択します。

4. **[MHz SETUP]** キーを押して、**DIAL** ツマミをまわして“**TONE FRQ 47**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。

5. **DIAL** ツマミをまわして、トーン周波数を選択します。

6. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。
“**T SQ**”が点灯します。



- トーン周波数の設定は、下記のスケルチの種類で共通の設定です。
TONE、TSQL、RV TN、T DCS、D TONE
- 工場出荷時は“88.5Hz”に設定されています。

相手局が使用しているトーンスケルチの周波数を探す

相手局のトーンの周波数を調べることができます。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**SQL TYPE 44**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。

3. **DIAL** ツマミをまわして“**TSQL**”を選択します。

4.  キーを押し、**DIAL** ツマミをまわして
“**TONE FRQ 47**”を選択して、 キーを押
します。
トーン周波数の設定画面が表示されます。

TONE FRQ 47

88.5 K2

5. マイクロホンの **[UP]** または **[DWN]** を長押し
します。

[UP] ➡ 周波数の高い方にサーチを開始

[DWN] ➡ 周波数の低い方にサーチを開始

サーチ中に **DIAL** ツマミをまわすと、サーチ
の方向を変更することができます。

一致したトーン周波数が見つかると、ピープ音が鳴りトーン周波数が点滅表示しま
す。サーチが約 5 秒間停止して音声を聞くことができます。

6. マイクロホンの **[UP]** または **[DWN]** キーを押すとサーチが停止します。

7.  キーを長押しします。

サーチしたトーン周波数に設定されて通常画面に戻ります。



サーチが停止したときの動作はセットモード [39 SCAN RSM] (□□ 24 参照) で設定するこ
とができます。この設定は各種スキャン機能のほか、トーンサーチ機能、DCS サーチ機能で共通
です。

デジタルコードスケルチ(DCS)機能

デジタルコードスケルチ(DCS)機能を使うと、設定した DCS コードが含まれた信号を受信したときだけスケルチが開きます。

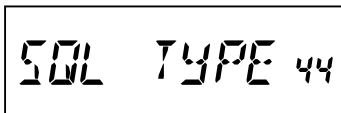


デジタルコードスケルチ(DCS)はデジタルモードでは動作しません。 キーを押して、アナログ FM モードか AMS モードに切り替えてください。

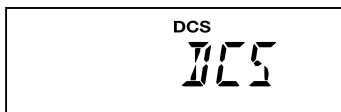
DCS コードを設定する

DCS コードは、023 ~ 754 の 104 種類から選択できます。

1.  キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**SQL TYPE 44**”を選択して、 キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして“**DCS**”を選択します。
4.  キーを押し、**DIAL** ツマミをまわして“**10 DCS CODE**”を選択して、 キーを押します。
5. **DIAL** ツマミをまわして、DCS コードを選択します。
6.  キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。
“**DCS**”が点灯します。



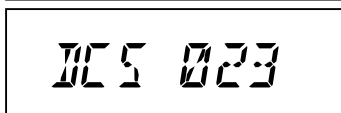
SQL TYPE 44



DCS
DCS



DCS CODE 10



DCS 023



DCS
145.620

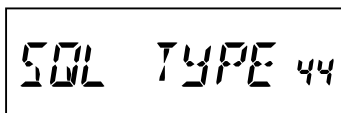


- DCS コードの設定は、下記のスケルチの種類で共通の設定です。
DCS、D CODE、T DCS、D TONE
- 工場出荷時は DCS コードは“023”に設定されています。

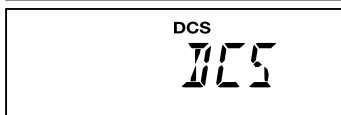
相手局が使用している DCS コードを探す

相手局の DCS コードを調べることができます。

1.  キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**SQL TYPE 44**”を選択して、 キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして“**DCS**”を選択します。



SQL TYPE 44



DCS
DCS

4.  キーを押し、**DIAL** ツマミをまわして“**10 DCS CODE**”を選択して、 キーを押します。

DCS コードの設定画面が表示されます。



DCS CODE 10



DCS 023

5. マイクロホンの **[UP]** または **[DWN]** を長押しします。

[UP] ➡ DCS コードの高い方にサーチを開始

[DWN] ➡ DCS コードの低い方にサーチを開始

サーチ中に **DIAL** ツマミをまわすと、サーチの方向を変更することができます。

一致した DCS コードが見つかり、ビープ音が鳴り DCS コードが点滅表示します。サーチが約 5 秒間停止して音声を聞くことができます。

6. マイクロホンの **[UP]** または **[DWN]** キーを押すとサーチが停止します。

7.  キーを長押しします。

サーチした DCS コードに設定されて通常画面に戻ります。



サーチが停止したときの動作はセットモード [39 SCAN RSM] (□ 24 参照) で設定することができます。この設定は各種スキャン機能のほか、トーンサーチ機能、DCS サーチ機能で共通です。

新ページャー(PAGER)機能

仲間同士で運用中に、それぞれの個別コード(2つの CTCSS トーンを使用したコード)を設定すると、特定の局だけを呼び出せます。呼び出されたときに無線機の近くにいない場合でも、ディスプレイの表示で呼び出しがあったことがわかります。



新ページャーは、デジタルモードでは動作しません。**[MODE CS-45]** キーを押して、アナログ FM モードか AMS モードに切り替えてください。

自局のページャーコードを設定する

自分が呼び出されるときの“ページャーコード”を設定します。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。

2. **DIAL** ツマミをまわして“**PAG CD-R 29**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。

PAG CD-R 29

3. **DIAL** ツマミをまわして 1 つ目のコードを 01 ~ 50 の中から選択します。

*05 47

4. **[BAND SQL]** または **[V/M MW]** キーを押します。

- ※が 2 つ目のコードに移動します。

- [BAND SQL]** / **[V/M MW]** キーを押すたびに※が移動します。

*05 47

5. **DIAL** ツマミをまわして 2 つ目のコードを 01 ~ 50 の中から選択します。

1 つ目と 2 つ目を同じコードに設定することはできません。

6. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。



- “05 47”と“47 05”のように逆の組み合わせは同じコードとして動作します。
- 仲間同士が全員同じコードに設定すると、グループ全員を一斉に呼び出せます。
- 工場出荷時は“05 47”に設定されています。

相手局のページャーコードを設定する

相手局を呼び出すときの“ページャーコード”を設定します。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。

2. **DIAL** ツマミをまわして“**PAG CD-T 30**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。

PAG CD-T 30

3. **DIAL** ツマミをまわして 1 つ目のコードを 01 ~ 50 の中から選択します。

*05 47

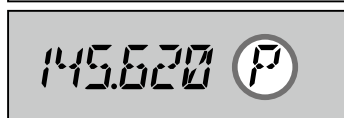
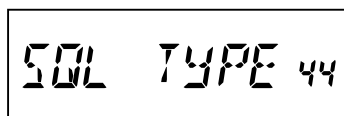
4. **[BAND SQL]** または **[V/M MW]** キーを押します。
 - ※が2つ目のコードに移動します。
 - **[BAND SQL]** / **[V/M MW]** キーを押すたびに※が移動します。
5. **DIAL** ツマミをまわして2つ目のコードを01～50の中から選択します。
1つ目と2つ目を同じコードに設定することはできません。
6. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。



新ページャー機能を使う

自分と相手局のページャーコードの設定を行った後、新ページャー機能を動作させます。

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“SQL TYPE 44”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして“PAGER”を選択します。
4. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。
“P”が点灯します。



5. PTT スイッチを押して相手局を呼び出します。



- “30 PAG CD-T”で設定した相手局だけを呼び出せます。
- 仲間全員が同じコードに設定すると、グループ全員を一斉に呼び出せます。
- 工場出荷時は“05 47”に設定されています。

相手局からの呼び出し(待ち受け動作)

新ページャーを機能させているときに、コードが一致した相手局から呼び出されると、ディスプレイの“P”が点滅して音声を聞くことができます。



“P”が点滅している約10秒間は、ページャーコードが一致しない信号の音声も出力されます。

ベル機能(☎ 11 参照)を設定していると、呼び出された際にベル音が鳴り“📞”アイコンが点滅します。

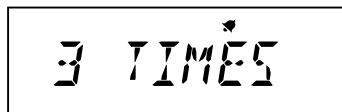


“📞”アイコンは無線機の操作を行うまで点滅し続けますので、呼び出されたときに無線機の近くにいなかった場合でも、呼び出しがあったことがわかります。

相手からの呼び出しを知らせるベル機能

相手局からの呼び出し(同じトーンや DCS コード、新ページャーコードを含む信号を受信)をベル音で知らせます。また、無線機の操作を行うまでディスプレイの“”アイコンが点滅して知らせますので、あとからでも相手局から呼ばれたことを確認できます。

1.  キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**BELL 7**”を選択して、 キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわしてベルが鳴る回数(1～20回または連続(CONTINUE))を選択します。
4.  キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。
“”が点灯します。



- 工場出荷時は“OFF”に設定されています。
- “CONTINUE”(連続)に設定した場合は、無線機の操作をするまでベルが鳴り続けます。

DTMF 機能を使う

DTMF (Dual Tone Multi Frequency)は、プッシュホン回線の電話をかけたときに受話器から聞こえる“ピッポッパッ”音のことです。WIRES-X のアナログノード局に接続するときやフォンパッチで公衆回線に接続するときに使用する、電話番号などのDTMF コードを最大 16 桁、10 チャンネル登録して簡単に送出できます。

手動で DTMF コードを送出する

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**DT AUTO 16**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、“**MANUAL**”を選択します。

DT AUTO 16MANUAL

工場出荷時は“MANUAL”に設定されています。

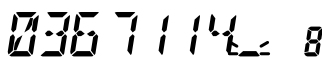
4. **[MHz SETUP]** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。
5. **PTT** スイッチを押しながら、マイクロホンのキーを押すと、キーを押している間、DTMF コードが送出されます。
キーを放してから約 2 秒間は、**PTT** スイッチを放しても送信を続けます。

DTMF メモリーを登録する

1. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**DT SET 18**”を選択して、**[MHz SETUP]** キーを押します。
DTMF メモリーチャンネル番号が点滅します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、登録する DTMF メモリーチャンネル番号(C0 ~ C9)を選択します。

DT SET 18

4. **[V/M MW]** キーを押します。
DTMF メモリー入力画面が表示されます。
5. マイクロホンのテンキーまたは **DIAL** ツマミを使って、最大 16 桁の DTMF コードを入力します。

0367114

• テンキー操作

0 ~ 9、A ~ D、*、# の DTMF コードを直接入力できます。



“*”は“E”、“#”は“F”と表示されます。

• DIAL ツマミ操作

DIAL ツマミをまわして DTMF コードを設定できます。

... ⇄ **0** ~ **9** ⇄ **A** ~ **F** ⇄ - ⇄ ...



“*”は“E”、“#”は“F”と表示されます。

• カーソル移動、入力文字の削除

BAND SOL キー： カーソルを右に移動

MODE SCUD キー： カーソルを左に移動

CHG ABS キー長押し： カーソル位置から後ろの文字をすべて削除

6. **MHz SETUP** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。

登録した DTMF コードを送出する

1. **MHz SETUP** キーを長押しして、セットモードにします。

2. **DIAL** ツマミをまわして“**DT AUTO 16**”を選択して、**MHz SETUP** キーを押します。

DT AUTO 16

3. **DIAL** ツマミをまわして、“**AUTO**”を選択します。

AUTO



工場出荷時は“**MANUAL**”に設定されています。

4. **MHz SETUP** キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。

“**Ⓕ**”が点灯します。

145.620 **Ⓕ**

5. **PTT** スイッチを押しながら、送りたい DTMF コードが登録されているチャンネル番号を、マイクロホンのデンキー(0 ~ 9)で押します。

DTMF メモリーに登録されている DTMF コードを自動で送出します。



DTMF コードの送出中は PTT スイッチを放しても、送信を継続します。送出が終了すると自動的に受信状態に戻ります。

DTMF 送出スピードの設定

DTMF の送出方法を“**AUTO**”に設定しているときの、DTMF コードを送出するスピードを設定します。

1.  キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**DT SPEED 19**”を選択して、 キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、送出スピードを選択します。
50MS： 高速
100MS： 低速

DT SPEED 19

50 MS



工場出荷時は“50MS”に設定されています。

4.  キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。

DTMF 送出ディレイ時間の設定

DTMF の送出方法を“**AUTO**”に設定しているときの、テンキーを押してから DTMF コードの送出を始めるまでの時間(ディレイ時間)を設定します。

1.  キーを長押しして、セットモードにします。
2. **DIAL** ツマミをまわして“**DT DELAY 17**”を選択して、 キーを押します。
3. **DIAL** ツマミをまわして、DTMF コードを送出するまでの時間を選択します。
50 / 250 / 450 / 750 / 1000 (MS)から選択できます。

DT DELAY 17

450 MS



工場出荷時は“450MS”に設定されています。

4.  キーを長押しすると設定が保存され、通常画面に戻ります。

スプリットメモリー

1つのメモリーチャンネルに、異なる受信周波数と送信周波数を書き込みできます。

1. あらかじめ“受信周波数”をメモリーに書き込みます。

“メモリーに書き込む”(取扱説明書<基本編>)を参照してください。

2. 書き込む“送信周波数”を設定します。

3.  キーを長押しします。

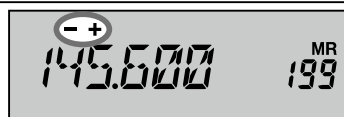


4. **DIAL** ツマミをまわして、手順 1. で“受信周波数”を書き込んだメモリーチャンネル番号を選択します。

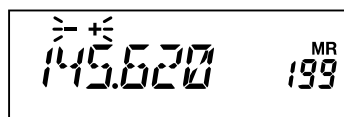


5. **PTT** スイッチを押しながら、 キーを押します。スプリットメモリーが保存されます。

- このとき **PTT** スイッチを押しても送信状態にはなりません。
- スプリットメモリーの呼び出し中は、ディスプレイに“- +”が表示されます。
- スプリットメモリーの呼び出し中に、リバー機能割り当てたマイクロホンの **[P3]** または **[P4]** キーを押すと、一時的に送信と受信周波数を入れ替える(リバー状態)ことができます。リバー中は“- +”が点滅します。



スプリットメモリーの表示

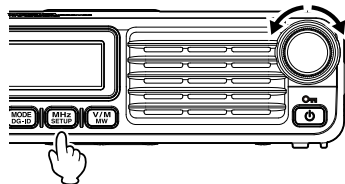


リバー状態の表示

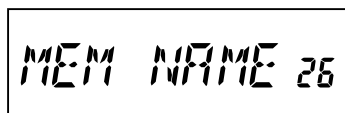
メモリーに名前をつける

メモリーチャンネルやホームチャンネルに、最大 8 文字の名前(メモリータグ)をつけることや変更をすることができます。

1. 名前をつけるメモリーチャンネルまたはホームチャンネルを呼び出します。
2. **[MHz SETUP]** キーを長押しして、セットモードにします。



3. **DIAL** ツマミをまわして“MEM NAME 26”を選択します。



4. **[MHz SETUP]** キーを押します。
メモリーチャンネルを呼び出したときに表示する名前を入力する画面が表示されます。



5. マイクのテンキーまたは **DIAL** ツマミを使って、文字を入力します。

[V/M MW] キーを押すと、カーソルが右に移動します。



• 文字入力

例 **[2]** のキーを押すたびに下記のように文字が表示されます。

a ➡ b ➡ c ➡ A ➡ B ➡ C ➡ a ➡ . . .

例 **DIAL** ツマミをまわすと下記のように文字が表示されます。

. . . ⇄ A ~ Z (記号) ⇄ a ~ z (記号) ⇄ 0 ~ 9 (記号) ⇄ . . .

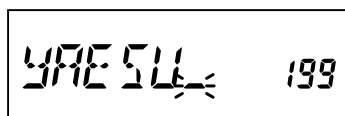
• カーソル移動、入力文字の削除

[V/M MW] キー： カーソルを右に移動

[BAND SOL] キー： カーソルを左に移動

[CH/ABC] キー長押し： カーソル位置から後ろの文字をすべて削除

6. 手順 5 を繰り返して名前を入力します(最大 8 文字)。



7. **[MHz SETUP]** キーを長押しします。

メモリーチャンネルにメモリータグが書き込まれ、通常画面に戻ります。



メモリータグを書き込んだメモリーチャンネルは、自動でメモリータグ表示に設定されます。

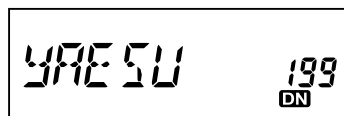
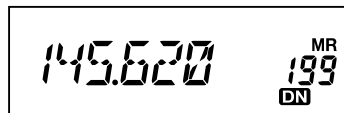
メモリータグ表示と周波数表示を切り替える

1. 表示を切り替えるメモリーチャンネルまたはホームチャンネルを呼び出します。

2.  キーを押します。

メモリータグ表示と周波数表示が交互に切り替わります。

- メモリータグが設定されていないメモリーチャンネル / ホームチャンネルでは、表示は切り替わりません。



メモリーだけで運用するメモリーオンリーモード

書き込みをしたメモリーチャンネルだけで FTM-7250D を使うことができます。

1.  キーを押しながら、電源をオンにします。

メモリーオンリーモードになり、最後に使用したメモリーチャンネルが呼び出されます。

DIAL ツマミでメモリーチャンネルが選択できます。

マイクロホンのテンキーで 3 桁のメモリーチャンネル番号を入力すると、メモリーチャンネルを呼び出すことができます。

メモリーオンリーモードでは、下記の機能以外は動作しません。

- 通信モードの切り換え ( キー押し)
- グループモニター (GM) 機能 ( キー押し)
- AMS 機能の送信モード設定 ( キー長押し)
- DG-ID コードの設定 ( キー長押し)
- 音量調整
- SQL レベル調整
- ロック機能



● メモリーオンリーモードを解除する

1. 電源をオフにしてから、もう一度  キーを押しながら電源をオンにすると、メモリーオンリーモードを解除します。

スキャンしたくないメモリーチャンネルをスキップする(スキャンスキップ)

メモリスキャン中に受信したくないメモリーチャンネルを指定すると、スキャン中にスキップします。

1. スキャンしたくないメモリーチャンネルを呼び出します。

2.  キーを長押しして、セットモードにします。

3. **DIAL** ツマミをまわして“**SCAN SKP 40**”を選択します。



4.  キーを押します。

5. **DIAL** ツマミをまわして“**SKIP**”を選択します。



6.  キーを長押しします。

スキャンスキップが指定され、メモリーモード画面に戻ります。

スキャンスキップが指定されたメモリーチャンネルを呼び出すと“▶”の表示が点滅します。

メモリスキャンを行うと、スキャンスキップ指定したメモリーチャンネル以外のチャンネルだけをスキャンします。

スキャンしたいメモリーチャンネルを指定する(指定メモリスキャン)

メモリーチャンネルの中から、スキャンしたいメモリーチャンネルを指定しておく、指定したメモリーチャンネルだけをスキャンできます。

1. 指定したいメモリーチャンネルを呼び出します。

2.  キーを長押しして、セットモードにします。

3. **DIAL** ツマミをまわして“**SCAN SKP 40**”を選択します。



4.  キーを押します。

5. **DIAL** ツマミをまわして“**SELECT**”を選択します。



6.  キーを長押しします。

指定メモリーが設定され、メモリーモード画面に戻ります。

指定メモリーが設定されたメモリーチャンネルを呼び出すと“▶”が表示します。

指定メモリーで設定したメモリーチャンネルだけをスキャンする

1. 指定メモリーに設定した、いずれかのメモリーチャンネルを呼び出します。

2. マイクロホンの **[UP]** または **[DWN]** キーを長押しして、メモリスキャンを開始します。

指定メモリーチャンネルだけをスキャンします。



指定メモリーは2つ以上設定されていないと、指定メモリーのスキャンをすることができません。

プログラマブルメモリスキャン(PMS)

プログラマブルメモリーに書き込む

PMS メモリーチャンネルには、上下限周波数が 10 組(L0/U0 ~ L9/U9)書き込みできます。

スキャンする周波数範囲の周波数をメモリーします。

L □ : 下限周波数

U □ : 上限周波数

メモリーの方法は、“メモリーに書き込む”(24 参照)を参照してください。

- 上下限周波数は、L1/U1 や L2/U2 など、同じ番号の組み合わせでメモリーしてください。
- プログラマブルメモリスキャンをするには、下記のように PMS メモリーを設定してください。



- ・ 上下限周波数は 100kHz 以上離れた周波数にしてください
- ・ 上下限周波数は同じ周波数帯にしてください
- ・ 上下限周波数を逆にメモリーしないでください
- ・ PMS メモリーをスキップメモリーに設定しないでください

プログラマブルメモリスキャンをする

PMS メモリーで指定した上下限周波数の範囲をスキャンして、信号がある周波数を探します。

1. 下限(L □)または上限周波数(U □)の PMS メモリーチャンネルを呼び出します。
2. マイクロホンの [#] キーを押します。
3. マイクロホンの [UP] または [DWN] を長押しします。

プログラマブルメモリスキャンが開始されます。

- ・ PMS 中は、ディスプレイに“P □”が表示されます。
- ・ スキャン中に **DIAL** ツマミをまわすと、スキャンする方向を変更することができます。

信号を受信するとスキャンが一時停止して、ディスプレイの小数点が点滅します。
約 5 秒後に再びスキャンを開始します。

4. **PTT** スイッチを押すと、スキャンを中止します。



- 一時停止しているときに、**DIAL** ツマミをまわして次の周波数に進めることができます。
- PMS 中は、上限と下限の周波数範囲内で周波数を変更することができます。
- PMS 中に、 キーを押すと、通常のメモリーモードに戻ります。

デュアルレシーブ(DW)機能

本機には、次の 3 種類のデュアルレシーブ機能が搭載されています。

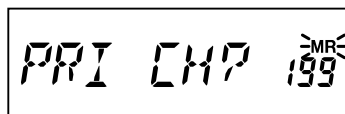
- VFO デュアルレシーブ
- メモリーチャンネルデュアルレシーブ
- HOME チャンネルデュアルレシーブ

現在の VFO、メモリーまたは HOME チャンネルの周波数を受信して、約 5 秒間に一度、指定したメモリーチャンネル(プライオリティメモリーチャンネル)の信号を自動的に確認します。プライオリティメモリーチャンネルに信号がある場合は自動的にデュアルレシーブ機能を解除して、その信号を受信することができます。

プライオリティメモリーチャンネルを設定する

1. プライオリティメモリーチャンネルに指定して、優先的に受信したい周波数や通信モードを、“メモリーに書き込む”(取扱説明書<基本編>)を参照して、メモリーに保存します。
2.  キーを押してメモリーチャンネルを呼び出します。
3.  キーを長押しした後に、**DIAL** ツマミをまわして、手順 1. でメモリーしたプライオリティメモリーチャンネルに指定するメモリーチャンネルを表示させます。
4.  キーを押します。

確認画面“PRI CH ?”が表示されます。



5.  キーを押します。

プライオリティメモリーチャンネル設定が保存され、最初に呼び出していたメモリーチャンネル表示に戻ります。

プライオリティメモリーチャンネルを呼び出すと、約 1 秒間メモリーチャンネル番号部に“P”が表示されます。

デュアルレシーブ (DW) を動作させる

1. 常時受信する周波数に設定します。

常時受信する周波数は VFO のほかに、メモリーチャンネル、HOME チャンネルを使うことができます。

VFO デュアルレシーブ

VFO ⇨ プライオリティメモリーチャンネル

メモリーデュアルレシーブ

メモリーチャンネル ⇨ プライオリティメモリーチャンネル

HOME チャンネルデュアルレシーブ

HOME チャンネル ⇨ プライオリティメモリーチャンネル

2. マイクロホンの[P3]または[P4]に“DW”(デュアルレシーブ機能)を割り当てます。
割り当て方法は、“マイクロホンのプログラムキーを設定する”(3 参照)を参照してください。
3. “DW”を割り当てたキー([P3] または [P4])を押します。
デュアルレシーブが動作します。
プライオリティチャンネルで信号を受信したときは、ビーブ音が鳴りデュアルレシーブが一時停止します。一時停止中は周波数表示のデシマルポイントが点滅します。
4. “DW”を割り当てたキー([P3] または [P4])を押すと、デュアルレシーブ機能が解除されます。



常時受信する周波数とプライオリティメモリーチャンネルの周波数帯や通信モードは、自由に組み合わせることができます。また AMS 機能をオンにして使うこともできます。

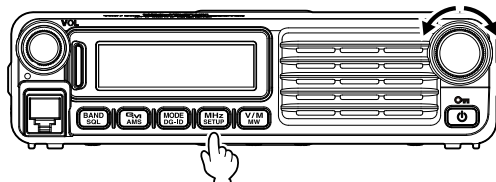
使い方にあわせて設定を変える(セットモード)

セットモードを使うと、本機のさまざまな機能を使い方にあわせてカスタマイズできます。それぞれのセットモード項目で設定や入力を行うことで本機をより使いやすくなることができます。

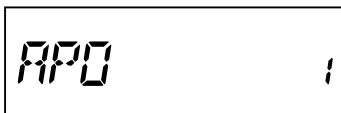
セットモードの操作方法

1. **MHz SETUP** キーを長押しします。

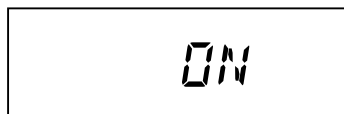
セットモードに切り替わり、最後に呼び出したセットモード項目が表示されます。



2. **DIAL** ツマミをまわして、設定したいセットモード項目を選択します。



3. **MHz SETUP** キーを押した後、**DIAL** ツマミをまわして設定を変更します。



4. **MHz SETUP** キーを長押しすると変更した設定を保存して、通常画面に戻ります。



手順 4. で **MHz SETUP** キーを短く押すと、変更した設定を保存してセットモード項目の表示に戻ります。続けて他のセットモード項目を設定する場合に便利です。

セットモード動作一覧表

No.	セットモード	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
1	APO	APO(オートパワーオフ)時間の設定	OFF / 0.5H ~ 12H
2	BCLO	信号受信中の送信禁止設定(ビジーチャンネルロックアウト)	OFF / ON
3	BEP KEY	操作時のビーブ音の設定	OFF / KEY+SCAN / KEY
4	BEP EDGE	周波数帯の上下限(バンドエッジ)を通過したときのビーブ音	OFF / ON
5	BEP LVL	ビーブ音の音量設定	HIGH / LOW
6	BEP STBY	デジタルモードで相手局が送信終了したことを知らせるビーブ音	OFF / ON
7	BELL	ベル機能動作時の呼出回数設定	OFF / 1 TIME ~ 20TIMES / CONTINUE
8	CLK TYPE	CPU クロックのシフト設定	A / B
9	DC VOLT	電源電圧表示	(電源電圧)
10	DCS CODE	DCS コードの設定	DCS 023 ~ DCS 754
11	DCS INV	コード反転 / 非反転の設定	NORMAL / INVERT / BOTH
12	DIG AMS	AMS 機能の送信モード設定	AUTO / TXMANUAL / TX FMFIX / TX DIGTL
13	DIG VW	VW モード選択の ON/OFF 設定	OFF / ON
14	DI POPUP	デジタルモードで受信した相手局コールサインの表示時間設定	OFF / 2SEC ~ 10SEC ~ 60SEC / CONTINUE
15	DPID LST	DP-ID リスト(DP-ID の表示・登録・削除)	(登録されている DP-ID)
16	DT AUTO	DTMF コード自動送出の設定	MANUAL / AUTO
17	DT DELAY	DTMF 送出ディレイ時間	50MS / 250MS / 450MS / 750MS / 1000MS
18	DT SET	DTMF メモリー CH 選択および編集	C0 / C1 ~ C9
19	DT SPEED	DTMF 送出スピードの設定	50 MS / 100 MS
20	DW RVRT	DW 動作中の送信操作で常にプライオリティチャンネルで送信	OFF / ON
21	GM RINGR	デジタル GM 情報受信時のビーブ音設定	OFF / IN RANGE / ALWAYS
22	GM INTVL	デジタル GM 情報送出間隔	NORMAL / LONG
23	LCD DMMR	バックライト輝度の調整	LEVEL1 ~ LEVEL4
24	LOCK	ロックする KEY/DIAL/PTT 選択	KEY / DIAL / KEY+DIAL / PTT / KEY+PTT / DIAL+PTT / ALL
25	MIC GAIN	マイク入力レベルの調整	LEVEL1 ~ LEVEL5 ~ LEVEL9
26	MEM NAME	メモリータグ編集	(最大 8 文字)
27	MW MODE	メモリー書き込み時に最初に表示する CH 設定	NEXT CH / LOWER CH
28	OPEN MSG	オープニングメッセージの表示選択	DC / MESSAGE / OFF
29	PAG CD-R	受信用ページャーコード選択	01 ~ 05 ~ 50、01 ~ 47 ~ 50
30	PAG CD-T	送信用ページャーコード選択	01 ~ 05 ~ 50、01 ~ 47 ~ 50

No.	セットモード	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
31	PRG P3	マイクロホンの [P3] キー設定	SQL OFF / HOME / CD SRCH / SCAN / T CALL / TX POWER / MODE / GM / WIRES-X / REV / DW / セットモードの 1 ~ 55 のいずれか 1 つ (31 と 32 は設定できません)
32	PRG P4	マイクロホンの [P4] キー設定	SQL OFF / HOME / CD SRCH / SCAN / T CALL / TX POWER / MODE / GM / WIRES-X / REV / DW / セットモードの 1 ~ 55 のいずれか 1 つ (31 と 32 は設定できません)
33	RADIO ID	無線機ごとの固有 ID (5 桁の英数字) を表示 (変更できません)	(Radio ID 表示)
34	RF SQL	S メータースケルチのレベル設定	OFF / S1 ~ S8
35	RPT ARS	ARS (オートレピータシフト) 設定	OFF / ON
36	RPT FREQ	レピータシフト幅の設定	0.00MHz ~ 150.00MHz (430MHz 帯は 5.00M)
37	RPT SFT	レピータシフト方向の設定	SIMPLEX / - RPT / +RPT
38	RX MODE	受信モードの設定	AUTO / FM / AM
39	SCAN RSM	スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定	2SEC ~ 5SEC ~ 10SEC / BUSY / HOLD
40	SCAN SKP	メモリスキャンの動作設定	OFF / SKIP / SELECT
41	SCNW MEM	メモリスキャンの周波数範囲の設定	ALL / BAND
42	SCNW VFO	VFO スキャンの周波数範囲の設定	ALL / BAND
43	SQL EXP	送受信で個別スケルチ設定の ON/OFF	OFF / ON
44	SQL TYPE	スケルチタイプ設定	OFF / TONE / TSQL / DCS / RV TONE / PAG
45	STEP	周波数ステップの設定	AUTO / 5 / 6.25 / 8.33 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 / 100 kHz ※ 8.33kHz は、航空無線帯で設定することができません。
46	TEMP	終段 FET 部分の温度表示	(温度表示)
47	TONE FRQ	トーン周波数の設定	67.0Hz ~ 88.5Hz ~ 254.1Hz
48	TOT	連続送信の制限時間の設定 (タイムアウトタイマー)	OFF / 0.5MIN ~ 10.0MIN
49	TS MUTE	トーンサーチ中の音声ミュートの設定	ON / OFF
50	TS SPEED	トーンサーチのスピードの設定	FAST / SLOW
51	VER DISP	本機の CPU および DSP のファームウェアバージョン表示	(CPU x.xx) / (DSP x.xx) ※ DIAL ツマミで切り替え表示
52	VFO MODE	VFO モードでの DIAL ツマミによる周波数設定範囲の設定	ALL / BAND
53	W/N DEV	FM モードの送信変調レベル設定	WIDE / NARROW
54	W-DGID	WIRES-X ノード局に接続する DG-ID 設定	AUTO / DGID01 - DGID99
55	MY CALL	コールサイン設定	(最大 10 文字)

1 APO

APO(オートパワーオフ)時間の設定

一定時間操作しなかった場合に、自動的に電源をオフにするかどうかを設定します。

OFF	自動的に電源をオフにしません。
0.5 H ~ ~ 12 H (時間)	指定した時間の間に何も操作しなかった場合、電源が自動でオフになります。

2 BCLO

信号受信中の送信禁止設定(ビジーチャンネルロックアウト)

信号を受信中に、誤って送信しないように設定します。

OFF	信号を受信中でも送信できます。
ON	信号を受信中は送信できません。

3 BEP KEY

キー操作時やスキャン停止時のピープ音の設定

キー操作時、およびスキャンが停止した時にピープ音を鳴らすかどうかを設定します。

OFF	ピープ音は鳴りません。
KEY+SCAN	キー操作時やスキャン停止時などにピープ音が鳴ります。
KEY	キー操作時にピープ音が鳴ります。

4 BEP EDGE

バンドエッジやメモリーチャンネル 1 を通過したときのピープ音

周波数帯の上下限(バンドエッジ)やメモリーチャンネル 1 を通過したときのピープ音を鳴らすかどうかの設定をします。

OFF	バンドエッジまたはメモリーチャンネル 1 の通過時にピープ音が鳴りません。
ON	バンドエッジまたはメモリーチャンネル 1 の通過時にピープ音が鳴ります。

5 BEP LVL

ピープ音の音量設定

ピープ音の音量を設定します。

HIGH / LOW	DIAL ツマミをまわしてピープ音の音量を調節します。
------------	-----------------------------

DIAL ツマミをまわすたびに、音量を確認するためにピープ音が鳴ります。

6 BEP STBY

C4FM デジタルモードで相手局の送信終了を知らせるビーブ音

C4FM デジタルモードで、相手局の送信終了時に“ピッ”というスタンバイビーブ音を鳴らすかどうかを設定します。

OFF	相手局の送信終了時にスタンバイビーブ音が鳴りません。
ON	相手局の送信終了時にスタンバイビーブ音が鳴ります。

7 BELL

ベル機能動作時の呼出回数設定

相手局からの呼び出し(同じトーンや DCS、新ページャーコードを含む信号を受信)をベル音で知らせるかどうかを設定します。

OFF	ベル音は鳴りません。
1 TIME ~ ~ 20 TIMES	ベル音が鳴る回数を 1 ~ 20 回から設定できます。
CONTINUE	キー操作を行うまでベル音が連続で鳴り続けます。

詳細は、“相手からの呼び出しを知らせるベル機能”(□ 11)を参照してください。

8 CLK TYPE

CPU クロックのシフト設定

本機に搭載されている CPU のクロック信号を、高周波による内部スプリアスとして受信しないように設定します。通常使用時は“A”を選択してください。

A	クロックシフト機能が自動的に ON/OFF します。
B	常にクロックシフト機能を動作させます。

9 DC VOLT

電源電圧表示

本機の電源電圧を表示します。

PTT スイッチを押すと、送信状態での電源電圧を確認することができます。

10 DCS CODE

DCS コードの設定

デジタルコードスケルチ(DCS)機能で使用する DCS コードを設定します。DCS コードは、023 ~ 754 の 104 種類から選択できます。。

詳細は、“DCS コードを設定する”(□ 7)を参照してください。

11 DCS INV

DCS 機能のコード反転 / 非反転の設定

DCS(デジタルコードスケルチ)機能を使用する際に、位相を反転した DCS コードを受信できます。

NORMAL	同相
INVERT	逆相
BOTH	両相(同相 / 逆相)

“NORMAL”に設定すると非反転(同相)と反転(逆相)のどちらの DCS コードも一致とみなします。

DCS 機能の設定は、“デジタルコードスケルチ(DCS)機能”(7)を参照してください。

12 DIG AMS

AMS 機能の送信モード設定

AMS 機能は相手局のモードに自動でこちらの受信モードを合わせて相手局の信号を受信することができますが、受信したモードに関係なく、送信モードを固定することができます。

AUTO	受信：受信信号に合わせて、通信モードを自動的に選択します。 送信：AMS 機能で自動的に選択された通信モードで送信します。
TXMANUAL	受信：受信信号に合わせて、通信モードを自動的に選択します。 送信：AMS 機能で自動的に選択された通信モードで送信します。なお、PTT スイッチを短く押すと、デジタルモードとアナログモードを交互に切り替えることができます。
TX FMFIX	受信：受信信号に合わせて、通信モードを自動的に選択します。 送信：常にアナログ FM モードで送信します。
TX DIGTL	受信：受信信号に合わせて、通信モードを自動的に選択します。 送信：常に通常のデジタルモード(DN)で送信します。

13 DIG VW

デジタル Voice FR(VW)モード選択の ON/OFF 設定

[MODE(DG-ID)] キーを押したときに、デジタル Voice FR(VW)モードを選択できるようにするかどうかを設定します。

OFF	デジタル Voice FR(VW)モードを選択できません。
ON	デジタル Voice FR(VW)モードを選択できます。

14 DI POPUP

デジタルモードで受信した相手局コールサインの表示時間

デジタルモードで受信した相手局コールサインをディスプレイに表示する時間を設定します。

OFF	相手局のコールサインを表示しません。
2 SEC ~ ~ 10 SEC ~ ~ 60 SEC	設定した時間コールサインを表示し続けます。
CONTINUE	何か操作をするまでコールサインを表示し続けます。

15 DPID LST

デジタルパーソナル ID(DP-ID)リストの表示・登録

デジタルパーソナル ID(DP-ID)リストを表示して、DP-ID の登録と削除ができます。詳細は、基本編の“デジタルパーソナル ID(DP-ID) 機能とは”を参照してください。

16 DT AUTO

DTMF コードの送出方法設定

DTMF コードを手動で送出するか、自動で送出するかを設定します。詳細は、“DTMF 機能を使う”(□ 12)を参照してください。

MANUAL	マイクロホンの数字キーを押して、手動で DTMF コードを送出します。
AUTO	DTMF メモリーに登録された DTMF コードを自動で送出します。

17 DT DELAY

DTMF 送出ディレイ時間

DTMF の送出方法を“AUTO”に設定しているときの、PTT スイッチを押しながらテンキーを押してから、DTMF コードの送出を始めるまでの時間(ディレイ時間)を設定します。

50MS / 250MS / 450MS / 750MS / 1000MS (msec)	PTT スイッチを押しながらテンキーを押してから、DTMF コードの送出を始めるまでの時間(ディレイ時間)設定
---	---

18 DT SET

DTMF メモリー CH 選択および編集

10 個の DTMF メモリーに最大 16 桁の DTMF コードを登録できます。
詳細は、“DTMF メモリーを登録する”(12)を参照してください。

19 DT SPEED

DTMF 送出スピードの設定

DTMF の送出方法を“AUTO”に設定しているときの、DTMF コードを自動で送出するスピードを設定します。

50MS /	50MS : 1 秒間に 10 文字のスピードで送出されます。
100MS (msec)	100MS : 1 秒間に 5 文字のスピードで送出されます。

20 DW RVRT

DW 動作中の送信操作で常にプライオリティチャンネルで送信

デュアルレシーブ(DW)動作中に **PTT** スイッチを押したときの動作を設定します。

OFF	プライオリティチャンネルで一時停止中に、 PTT スイッチを押すと DW 動作を解除して、その周波数で送信します。(DW 動作は再開しません) プライオリティチャンネルではないときに、 PTT スイッチを押すとその周波数で送信して、DW 動作は継続します。
ON	PTT スイッチを押すと、常にプライオリティチャンネルで送信します。 PTT スイッチを放すとプライオリティチャンネルを約 5 秒間受信して、その後 DW 動作を継続します。

21 GM RINGR

相手局の圏外 / 圏内を知らせるビープ音設定

グループモニター(GM)動作中に相手局が圏内または圏外になったときのビープ音を設定します。

OFF	ビープ音は鳴りません。
IN RNG	相手局が圏内になったとき、また圏外になったときにビープ音が鳴ります。同じ相手局が圏内であり続けるとき、ビープ音は鳴りません。
ALWAYS	相手局が圏内であることを確認できたとき、そのたびにビープ音が鳴ります。また圏外になったときにビープ音が鳴ります。

22 GM INTVL

グループモニター(GM)確認信号の送信間隔

グループモニター(GM)機能がオンのときの、確認信号を自動で送出する時間間隔を設定します。

OFF	確認信号を自動で送信しません。
NORMAL	約 15 秒*ごとに確認信号を自動で送信します。
LONG	約 1 分*ごとに確認信号を自動で送信します。

※：確認信号を送信する時間間隔は受信した局数にあわせて自動的に変化します。

23 LCD DMMR

バックライト輝度の調整

ディスプレイのバックライトとキー照明の明るさを調節します。

LEVEL 1 ~ ~ LEVEL 4	LEVEL 1 (暗) ~ LEVEL 4 (明)
-------------------------------	---------------------------

24 LOCK

ロックする KEY/DIAL/PTT 選択

電源 /LOCK スイッチを押したときに、ロックするキーや機能を設定します。

設定値	フロントパネルのキー	DIAL ツマミ	PTT スイッチ (送信動作)
KEY	○	×	×
DIAL	×	○	×
KEY+DIAL	○	○	×
PTT	×	×	○
KEY+PTT	○	×	○
DIAL+PTT	×	○	○
ALL	○	○	○

VOL ツマミ、**電源 /LOCK** スイッチはロックできません。

25 MIC GAIN

マイク入力レベルの調整

マイクの感度を調整します。

LEVEL 1 ~ ~ LEVEL 5 ~ ~ LEVEL 9	LEVEL 1 (感度小) ~ LEVEL 9 (感度大)
--	-------------------------------

PTT スイッチを押して送信しながら調整することもできます。

26 MEM NAME

メモリータグ編集

呼び出し中のメモリーチャンネルまたはホームチャンネルに英数記号で最大 6 文字のタグ(名前)を付けることができます。

詳細は、“メモリーに名前をつける”(□ 16)を参照してください。

27 MW MODE

メモリー書き込み時に最初に表示する CH 設定

メモリー書き込み操作時に、最初に表示されるメモリーチャンネルを設定します。

NEXT CH	前回呼び出したメモリーチャンネル以降で、最も小さい番号の空きメモリーチャンネル
LOWER CH	最も小さい番号の空きメモリーチャンネル

28 OPEN MSG

オープニングメッセージの設定

電源をオンにしたときに約 3 秒間表示する内容を設定します。

OFF	表示しません。
MESSAGE	下記の操作で入力したメッセージを表示します。
DC	電源電圧を表示します。

● メッセージの入力方法

1. “MESSAGE”を選択した後  キーを押します。
2. **DIAL** ツマミ、マイクロホンの **[UP]/[DWN]** またはマイクロホンのテンキーを使って、最大 8 文字のメッセージを入力します。

• 文字入力

例 **[2]** のキーを押すたびに下記のように文字が表示されます。

A → B → C → a → b → c → A . . .

例 **DIAL** ツマミをまわすか、マイクロホンの **[UP]/[DWN]** キーを押すと下記のように文字が表示されます。

. . . ⇄ A ~ Z ⇄ (記号) ⇄ a ~ z ⇄ (記号) ⇄ 0 ~ 9 ⇄ (記号) ⇄ . . .

• カーソル移動、入力文字の削除

 キー： カーソルを右に移動

 キー： カーソルを左に移動

 キー長押し： カーソル位置から後ろの文字をすべて削除

3.  キーを押すと、設定値を保存して設定を終了します。

29 PAG CD-R

受信用ページャーコード選択

自局が呼び出されときの受信用ページャーコードを選択します。

01 ~ 05 ~ 50, 01 ~ 47 ~ 50	自局が呼び出されときの受信用のページャーコード
---	-------------------------

詳細は、“自局のページャーコードを設定する”(□ 9)を参照してください。

30 PAG CD-T

送信用ページャーコード選択

相手局を呼び出すときの送信用ページャーコードを設定します。

01 ~ 05 ~ 50, 01 ~ 47 ~ 50	相手局を呼び出すときの送信用のページャーコード
---	-------------------------

詳細は、“相手局のページャーコードを設定する”(□ 9)を参照してください。

31 PRG P3

マイクロホンのプログラマブルキーの機能変更

マイクロホン MH-48A6JA のプログラマブルキー [P3] に機能を割り当てます。

SQL OFF	スケルチオフ
HOME	ホームチャンネルの呼び出し
CD SRCH	トーン周波数 / DCS コードサーチ機能
SCAN	スキャン開始 / 停止
T CALL	選択しないでください
TX POWER	送信出力設定
MODE	通信モードの変更
GM	グループモニター(GM)機能
WIRES-X	WIRES-X へのアクセス
REV	リバース機能
DW	デュアルレシーブ機能

上記以外にも、よく使用するセットモードを割り当てすることもできます。詳細は、“マイクロホンのプログラムキーを設定する”(□ 3)を参照してください。

32 PRG P4

マイクロホンのプログラマブルキーの機能変更

マイクロホン MH-48A6JA のプログラマブルキー [P4] に機能を割り当てます。

割り当てることができる機能は、上記の“PRG P3”を参照してください。工場出荷時は“SQL OFF”が割り当てられています。

33 RADIO ID

無線機ごとの固有 ID(5 桁の英数字)表示

Radio ID(無線機固有の ID 番号)を表示します。

34 RF SQL

RF スケルチ(S メータースケルチ)のレベル設定

設定以上の信号強度(S メーター値)の信号を受信したときだけ、音声を出力するように設定します。

OFF	RF スケルチ機能がオフになり、通常のスケルチ動作になります。
S1 ~ S8	設定した信号強度(S メーターの値)以上の信号を受信したときだけ音声を出力します。



- RF スケルチが設定されているときは、設定した信号強度に相当する S メータ部分が点滅します。
- 設定した信号強度(S メーターの値)未満の信号を受信しているときは、モードステータスインジケータの下側が青色に点滅して音声は出力されません。



RF スケルチは、FM モードまたは AM モードで使うことができます。

35 RPT ARS

ARS(オートレピータシフト)設定

ARS(レピータの周波数にあわせるだけで自動的にレピータが使える)機能を使用するかどうかを設定します。

OFF	ARS がオフになります。
ON(430MHz 帯)	ARS がオンになります。

36 RPT FREQ

レピータシフト幅の設定

レピータのシフト幅を設定します。

0.00MHZ ~ ~ 5.00MHZ ~ ~ 150.00MHZ	レピータのシフト幅
---	-----------

37 RPT SFT

レピータシフト方向の設定

レピータのシフト方向を設定します。

SIMPLEX	シフトしません。
- RPT	周波数の低い方向へシフトします。
+RPT	周波数の高い方向へシフトします。

38 RX MODE

受信モードの設定

各バンドごとに通信モード(電波型式)を設定することができます。

AUTO	バンド(周波数帯)に応じて自動的に適した通信モード(FMモードまたは AM モード)に切り替わります。
FM	選択中のバンド(周波数帯)が、FM モードになります。
AM	選択中のバンド(周波数帯)が、AM モードになります。

39 SCAN RSM

スキャンストップ時のスキャン再開条件の設定

スキャン中に信号を受信してスキャンが停止したときの動作を選択します。

2.0 SEC ~ ~ 5.0 SEC ~ ~ 10.0 SEC (秒)	設定した時間の間だけ受信し、その後は信号があってもスキャンを再開します。
BUSY	信号が無くなるまで受信し、信号が無くなると2秒後にスキャンを再開します。
HOLD	スキャンを中止し、その周波数を受信し続けます。(スキャンは再開しません)

詳細は、基本編の“スキャン停止時の動作を設定する”を参照してください。

40 SCAN SKP

スキップメモリー / 指定メモリーの設定

メモリスキャン中に、スキャンしないメモリーチャンネル(スキップメモリー)または、スキャンする特定のメモリー(指定メモリー)を設定することができます。

OFF	すべてのメモリーチャンネルをスキャンします。
SKIP	スキップメモリーを指定したメモリーチャンネル以外のチャンネルだけをスキャンします。
SELECT	指定メモリーを指定したチャンネルだけをスキャンします。

41 SCNW MEM

メモリスキャンの周波数範囲の設定

メモリーモードでのスキャン中に、スキャンする周波数の範囲を設定します。

ALL	メモリーチャンネルに書き込まれている周波数の周波数帯(バンド)とは無関係にメモリーチャンネルをメモリスキャンします。
BAND	メモリスキャンをスタートしたメモリーチャンネルと同一の周波数帯(バンド)内の周波数が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。

42 SCNW VFO

VFO スキャンの周波数範囲の設定

VFO モードでのスキャン中に、周波数帯(バンド)のエッジに達したときの動作を設定します。

ALL	バンドのエッジに達すると、次のバンドに切り替わりスキャンを続けます。
BAND	バンドのエッジに達すると、同じバンドの反対側のエッジに移動してスキャンを続けますので、同一バンド内だけのスキャンすることができます。

43 SQL EXP

送受信で個別スケルチ設定の ON/OFF

“44 SQL TYPE”で、送受信で異なるスケルチの種類を選択できるようにするかどうかを設定します。

OFF	送受信で個別スケルチは選択できません。
ON	送受信で個別スケルチ“D CODE”、“T DCS”、“D TONE”が選択できます。

詳細は、“アナログ FM モードのスケルチの種類を選択する”(4)を参照してください。

44 SQL TYPE

アナログ FM モードで特定の相手局と交信する際のスケルチの種類を設定します。

詳細は、“アナログ FM モードのスケルチの種類を選択する”(4)を参照してください。

45 STEP

DIAL ツマミやマイクロホンの **[UP]/[DOWN]** キーで 1 回に変わる周波数値を変えることができます。

AUTO	受信周波数に応じて自動的に最適な周波数ステップに切り替わります。
5.0KHZ 6.25KHZ 8.33KHZ ※ 10KHZ 12.5KHZ 15.0KHZ 20.0KHZ 25.0KHZ 50.0KHZ 100.0KHZ	選択した周波数ステップで切り替わります。

※ 8.33kHz は、航空無線帯で設定することができます。

46 TEMP

無線機の内部温度を表示

本機の終段 FET 部分の温度(°C)を表示します。

なお、温度が 25°C 以下の場合は“25.0C”と表示されます。

 キーを押すと、一時的に単位を華氏 (°F) に切り替えられます。

47 TONE FRQ

トーン周波数の設定

トーンスケルチ機能などで使用するトーン周波数を設定します。トーン周波数は、67.0 ~ 254.1Hz の 50 種類から選択できます。

詳細は、“トーン周波数を設定する”(□ 5)を参照してください。

48 TOT

連続送信の制限時間の設定(タイムアウトタイマー)

一定時間連続で送信した場合、自動で受信状態に戻るよう設定します。誤動作での不要電波送出や、バッテリーの消耗を防げます。

OFF	タイムアウトタイマーは機能しません。
0.5 MIN ~ ~ 10.0 MIN (分)	設定時間連続で送信した場合、自動で受信状態に戻ります。

自動で受信状態に戻る約 10 秒前にビーブ音が鳴ります。なお、デジタルモード時はビーブ音は鳴りません。

49 TS MUTE

トーンサーチ中の音声ミュートの設定

トーンサーチ中に音声の出力をするかどうかを設定します。

OFF	トーンサーチ中も音声を出力します。
ON	トーンサーチ中は音声を出力しません。

50 TS SPEED

トーンサーチのスピードの設定

トーンサーチのスピードを設定します。

FAST	トーンサーチのスピードが速くなります。
SLOW	トーンサーチのスピードが遅くなります。

51 VER DISP

本機の CPU および DSP のファームウェアバージョン表示

本機のファームウェアのバージョンを表示します。**DIAL** ツマミをまわすと“CPU”と“DSP”を切り替えることができます。

CPU x.xx	CPU のファームウェアバージョン
DSP x.xx	DSP のファームウェアバージョン

52 VFO MODE

VFO モードでの DIAL ツマミによる周波数設定範囲の設定

VFO モードで **DIAL** ツマミをまわして周波数を設定するときの周波数範囲を設定します。

ALL	バンドのエッジに達すると、次のバンドに切り替わります。
BAND	バンドのエッジに達すると、同じバンドの反対のエッジに移動します。バンドを変更する場合には BAND SQL キーを押します。

53 W/N DEV

送信変調レベル設定

送信変調レベルを設定します。通常は“WIDE”のままで使用します。

WIDE	通常の変調レベルです。
NARROW	送信変調レベルが通常の約半分になります。

54 W-DGID

WIRES-X デジタルノード局に接続する DG-ID 設定

WIRES-X 用の DG-ID をローカルノード局と同じ DG-ID 番号に設定します。

AUTO	設定した DG-ID 番号に一致するノード局のみ接続できます。
DGID 01 ~ ~ DGID 99	DG-ID が“00”に設定されているオープンノードに接続できます。

55 MY CALL

コールサイン設定

自局のコールサインを設定します。

詳細は、基本編の“コールサインの設定”を参照してください。

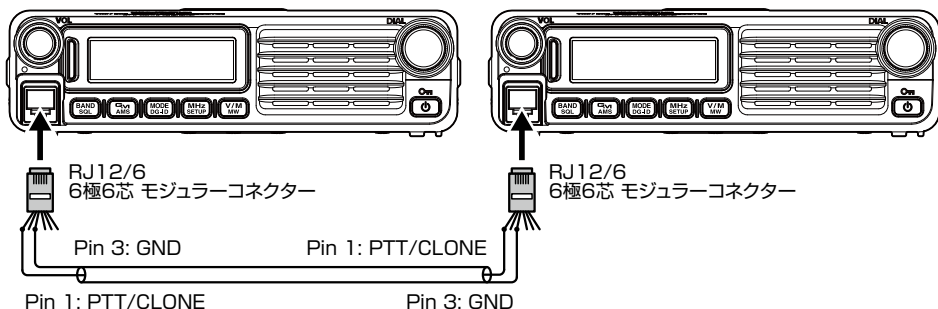
クローン操作

メモリー内容や各種の設定などを、別のFTM-7250D/Sにクローン(コピー)できます。

1. クローンをする 2 台の FTM-7250D/S の電源をオフにします。
2. 下図を参考に、2 台の FTM-7250D/S をケーブルで接続します。



接続ケーブルは、市販の 6 極 6 芯モジュラーコネクターを使用し、下図を参考に制作してください。



3. **[MHz SETUP]** キーを押しながら、それぞれの FTM-7250D/S の電源をオンにします。

ディスプレイに“CLONE”と表示され、クローンモードになります。

CLONE

4. データを受け側の FTM-7250D/S の **[MHz SETUP]** キーを押します。

ディスプレイに“--WAIT--”と表示されます。

--WAIT--

5. データを送る側の FTM-7250D/S の **[CH/AMS]** キーを押します。

ディスプレイに“--TX--”と表示され、クローンが開始されます。

--TX--

6. クローンが終了すると、受け側の FTM-7250D/S は自動的に再起動し、送り側の FTM-7250D/S は表示が“--TX--”から“CLONE”に戻ります。

7. 2 台の FTM-7250D/S の電源を切り、クローンケーブルを外します。



“ERROR”が表示された場合は、クローンできていません。クローンケーブルの接続を確認して、もう一度手順 1. からやり直してください。



本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0120-456-220

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～18:00

八重洲無線株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川 2-5-8 天王洲パークサイドビル
